

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 土しゃさいがいから命を守るために 」

香川県 高松市立木太南小学校 2年 ^{やまだ}山田 ^{りお}莉央

わたしは、ニュースで、山がくずれて家がこわれたり、道に土や木が流れてきてとおれなくなっているえいぞうをよく見ます。台風がやってきたり、急にものすごい雨がふったりするとニュースで、「土しゃさいがいには気をつけてください。」と言っていることをよく耳にしますが、こういったニュースをやっている時、わたしの父と母は、天気よほうを調べたり、雨によるえいきょうがどれくらいになりそうかなどをいつも話しています。それは、父と母が土しゃさいがいがおきないようにするしごとをしているからです。

わたしは、雨がたくさんふったら水がたくさん土に入り、土がやわらかくなってくずれてしまう、ということは分かるのですが、どうしてなんとも土しゃさいがいがおきてしまい、土しゃさいがいをなくすことができないのかが分からないので、父と母に聞いてみました。

さいきんの天気は、昔より、天気よほうでも分からないきゅうな雨がたくさんふったりすることがふえていること、みじかい時間にたくさんの雨がふることで土の中の水が一気にふえてくずれてしまうということを知りました。

父と母は、このような土しゃさいがいがおきないように、土しゃが流れるのを止めるためのさくやダムを作ったり、道のすぐよこのがけがくずれないようにコンクリートやネットをしたりしています。また、あまりにもたくさん雨がふってしまった時は、さいがいがおきてしまう前に道をとおれなくして安全をまもっています。父と母は、とても大へんなしごとをしているのだと思いました。人の命をまもるしごとをしていることにすごいと思いました。

父と母は、土しゃさいがいをまったくなくすことはむずかしいことなので、土しゃさいがいがおきそうだなということに早く気づくことが大切だと言っていました。土しゃさいがい起きる前に、かならずおかしいことがおきるのです。それは、かわがにごって木やえだがたくさんがれている時、山からおかしい音が聞こえる時、土くさいにおいがとてもする時、がけから石がぱらぱら落ちてくる時、山の木がゆれたり、ななめになっている時、地面がゆれている時など、土しゃさいがいがおきる前にはいつもにはないことがいろいろとおきるそうです。

このようなおかしいことに気づいた時には、いそいでその場所からはなれて、命を守ることが大切だとわたしは思いました。みんなもこのようなことを前もって知っておき、少しでもひがいが少なくなすむように、大切な命を守れるようにしていけたらいいなと思います。